

令和2年度地域実践研究「交流及び共同学習の充実に関する研究」

【背景】 近年、交流及び共同学習を推進していくための手立ては提供されてきているが、取組の充実に向けた課題は多く残されており、研究及び実践の蓄積が不可欠である。

【目的】 これまでの交流及び共同学習に関する施策、研究、実践を概観するとともに、課題とされている事項のうち、①障害のある児童生徒の保護者の意識や思いの把握、②居住地校交流の充実、③中学校における校内（特別支援学級と通常の学級）の取組の充実、の3点を取り上げ、保護者や担当教員等へのインタビュー調査等を通して、交流及び共同学習の充実に向けた視点、今後取り組むべき視点を検討・整理・提供することを目的とした。

【研究方法（交流及び共同学習の充実の視点の整理に向けたアプローチ）】

- ①交流及び共同学習に関する文献研究（論文・報告・資料等をもとにした施策、研究、実践の概観）
- ②障害のある児童生徒の保護者へのインタビュー調査（保護者の意識や思いの把握）

＜指定研究協力地域の取組＞

- ③居住地校交流の推進を担う特別支援学校の教員へのインタビュー調査（静岡県）
- ④中学校の特別支援学級担任への質問紙調査及び校長を交えたインタビュー調査（横須賀市）

【文献研究から ー取り組むべき課題ー】

- 障害種、実施形態・内容、学年等も踏まえた、多様な実践の蓄積
- 児童生徒や保護者の視点を踏まえた実践の検討
- 実践の質・成果や実践の評価に関する検討
- 通常の学級に在籍する教育的ニーズを有する児童生徒も含め、すべての児童生徒にとっての学びの充実の実現

【保護者の思いから ー期待と課題ー】

- 友だちとの交流を助け深める
- 自己について認識していく
- できることを増やす（学習、行動、他者関係、等）
- 同じ場で過ごす中でこそ期待できる育ち
- 周囲の児童生徒から学ぶ効果
- 実態、内容、ねらい、願い等の共有、共通理解
- 周囲の児童生徒、きょうだいの思い

【居住地校交流の充実の視点】

- 事前の打合せや事前学習の実施、情報共有
- 実施に向けた体制づくり（手順や役割）
- 教員間での副次的な籍に関する学習の積み重ね
- 小・中学校で学ぶ児童生徒への丁寧な説明
- 小・中学校の管理職、特別支援教育コーディネーター、教職員への理解啓発
- 居住する地域での暮らしを意識した実践

【中学校における取組の充実の視点】

- 特別支援学級と通常の学級間の連携、調整
- 校内職員や通常の学級の生徒への啓発の工夫
- 個別の教育支援計画や個別の指導計画の活用
- 特別支援学級の生徒へのサポート体制の充実
- 支援会議の充実、及び特別支援教育コーディネーターの機能充実
- 校長のリーダーシップ

【まとめと今後の課題】

- 実践上の視点：**交流及び共同学習の活動・学習において「児童生徒が今持っている力が発揮できる」「自分が役に立っている実感が持てる」実践の展開
- 今後の展開に向けてのさらなる課題：**上記の【文献研究から ー取り組むべき課題ー】に加え、実践による児童生徒の成長・成果の検討、副次的な籍の普及・展開、ICTを活用した取組の展開、校内における特別支援学級と通常の学級の児童生徒が共に学ぶ活動の充実

[地域実践研究]

交流及び共同学習の充実に関する研究

(令和2年度)

【研究代表者】 牧野 泰美

【要旨】

交流及び共同学習はインクルーシブ教育システム構築に向けた基礎的環境整備に位置付けられており、重要な教育活動である。先行研究によって、交流及び共同学習を推進していくための手立て等が提供されてきているが、実践の質の充実、保護者との連携等、課題も多く残されており、インクルーシブ教育システムの推進に向け、交流及び共同学習に係る研究及び実践の蓄積は不可欠である。

本研究では、これまでの交流及び共同学習に関する施策、研究、実践を概観するとともに、課題とされている事項として、障害のある児童生徒の保護者の意識や思いの把握、居住地校交流の充実、中学校における校内（特別支援学級と通常の学級）の取組の充実を取り上げ、保護者や担当教員等へのインタビュー調査等を通して、交流及び共同学習の充実に向けた視点、今後取り組むべき視点を検討・整理・提供することを目的とした。

障害のある児童生徒の保護者へのインタビューからは、交流及び共同学習に期待する事項とともに、児童生徒の実態や活動内容、活動のねらいや保護者の願い等についての情報共有や共通理解の重要性、障害のある児童生徒の保護者はもとより、本人、さらには、通常の学級に在籍する児童生徒やその保護者の視点も踏まえた検討の必要性が示された。

また、指定研究協力地域の課題でもある、居住地校交流の充実、中学校における校内の取組の充実に関しては、居住地校交流の推進を担う特別支援学校の教員へのインタビュー調査、中学校の特別支援学級担任への質問紙調査及び校長を交えたインタビュー調査を実施し、それぞれ、充実に向けて取り組むべき視点を示した。

最後に、今後の課題として、様々な実践の蓄積、児童生徒や保護者の思いを踏まえた検討、実践の質・成果や評価についての検討、副次的な籍の展開、ICTを活用した取組の展開、校内における共に学ぶ活動の充実等を挙げた。

【キーワード】

交流及び共同学習、保護者の意識・思い、居住地校交流、副次的な籍、中学校内における交流及び共同学習

【背景・目的】

交流及び共同学習はインクルーシブ教育システム構築に向けた基礎的環境整備に位置付けられており、重要な教育活動である。「交流及び共同学習の推進に関する研究」（国立特別支援教育総合研究所，2018）においては、各地の取組の実態を明らかにするとともに、Q&Aの試案の作成等、交流及び共同学習を推進していくための手立てを提供した。しかし、実践の質の充実、保護者との連携等、課題も多く残されており、インクルーシブ教育システムの推進に向け、交流及び共同学習に係る研究及び実践の蓄積は不可欠である。

本研究では、これまでの交流及び共同学習に関する施策、研究、論説、実践、各種報告等を概観するとともに、課題とされている事項として、障害のある児童生徒の保護者の意識や思いの把握、居住地校交流の充実、中学校における校内の取組の充実を取り上げ、保護者や担当教員等へのインタビュー調査等を通して、交流及び共同学習の充実に向けた視点、今後取り組むべき視点を検討・整理・提供することを目的とする。

【方法】

本研究では、交流及び共同学習に関する文献研究（施策、研究、実践の概観）、交流及び共同学習に関する障害のある児童生徒の保護者の思い等に焦点を当てた調査研究、指定研究協力地域（静岡県及び横須賀市）の課題（居住地校交流の充実、中学校における取組の充実）に関する調査研究等により考察・検討を進める。研究全体の構造を図1に示す。

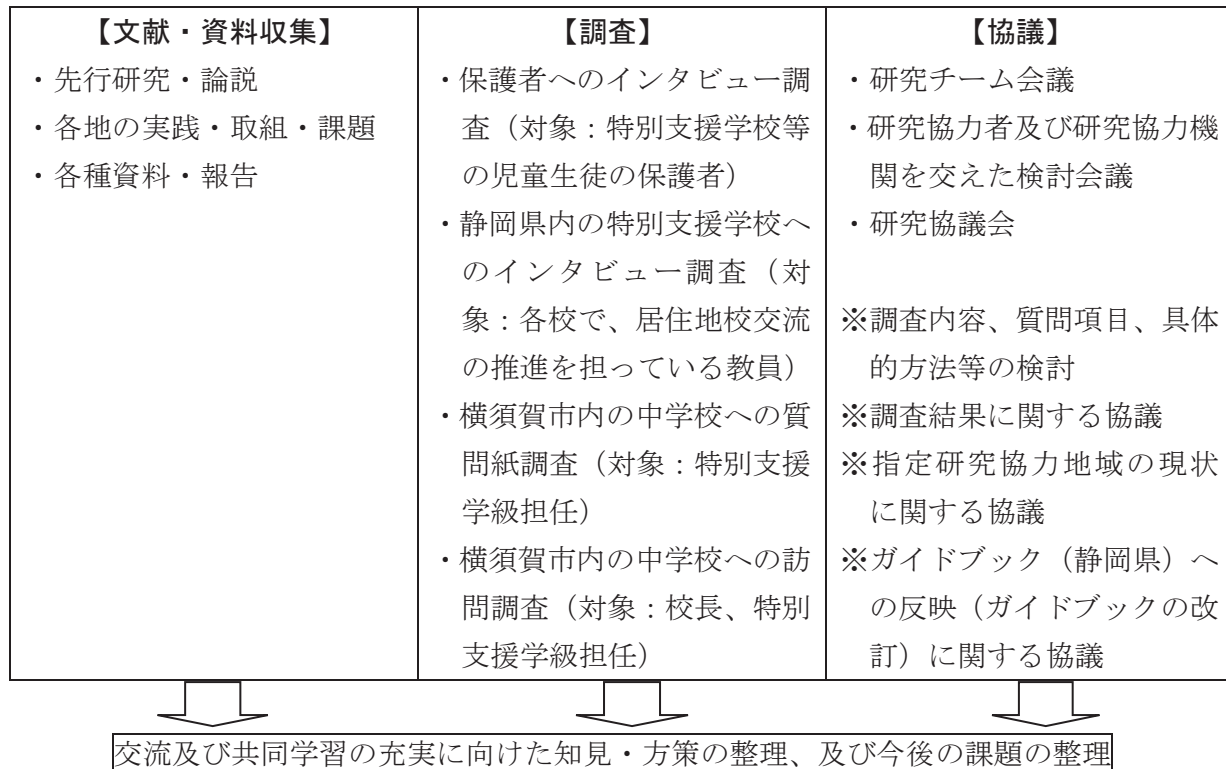


図1 研究全体の構造

【結果と考察】

1. 交流及び共同学習を巡る動向 …文献研究（施策、研究、実践等の概観）から

交流及び共同学習に関する文献、各種報告・資料等をもとに、施策、研究、実践を概観し、今後の充実に向けた視点や課題を整理した。

そこからは、校内における特別支援学級と通常の学級の交流及び共同学習の実践、居住地校交流の実践、様々な障害種や学年に係る実践等、多様な実践の蓄積、児童生徒や保護者の視点を踏まえた実践の検討、児童生徒に見られる実践の成果や実践の評価に関する検討等、取り組むべき事項が示された。また、通常の学級にも多様な教育的ニーズを有する児童生徒が在籍しており、交流及び共同学習においては、その点も踏まえ、全ての児童生徒にとっての学びの充実の実現を念頭に置いて取り組む必要性も指摘された。

2. 保護者の視点から交流及び共同学習の充実を考える

…障害のある児童生徒の保護者へのインタビュー調査から

交流及び共同学習に参加する、もしくは過去に参加していた障害のある児童生徒の保護者に対して、主としてオンラインによるインタビューを行い、保護者の感じている交流及び共同学習の成果（よかったこと）、課題、事前の打合せ内容、希望等を聞き取った。対象は、小・中学校及び特別支援学校に現在在籍している、もしくは過去に在籍していた障害のある児童生徒の保護者 13 名であった。聞き取ったエピソードに関わる当時の児童生徒の在籍は小学校特別支援学級、特別支援学校小学部及び中学部、学年は小 1 ～中 3 と多様であった。また、居住地も関東、中部、中国、九州の各地方 3 ～ 4 名、児童生徒の障害種も視覚障害、知的障害、肢体不自由、情緒障害、自閉症スペクトラムと多様であった。

聞き取った内容からは、以下の事項が、多くの保護者に共通して意識されていた。

- ・友だちとの交流を拡げ、深めること
- ・自己について認識していくこと
- ・できることを増やすこと（学習面、行動面、他者との関係・コミュニケーション等）
- ・友だちと同じ場で過ごし、意識する中でこそ期待できる育ちがあること

これらに加えて、周囲の児童生徒の行動・様子の模倣等、周囲の児童生徒から学ぶ効果も期待されていた。

交流及び共同学習において、こうした事項が尊重・達成されるためには、教員の障害理解、専門性や実践力の向上はもとより、教員同士、さらには教員と保護者における児童生徒の実態・特性等の共通理解、学習活動のねらいや保護者の願い等に関する意見交換等が重要となる。関係する教員、保護者とも、情報共有、意見交換を、いつ、いかに行うかが工夫すべき点と考えられる。

交流及び共同学習の充実を考える際、障害のある児童生徒やその保護者だけでなく、通常の学級で学ぶ児童生徒やその保護者の視点も踏まえた議論の重要性、さらには、障害のある児童生徒のきょうだいの思いも重要な要素であることが示された。

3. 静岡県「交流籍」を活用した交流及び共同学習ガイドブックの内容充実（指定研究協力地域：静岡県）

…居住地校交流の推進を担う特別支援学校の担当教員へのインタビュー調査から

静岡県（本研究の指定研究協力地域）においては、交流及び共同学習について、特別支援学校に通う生徒が居住する地域の小・中学校に「副次的な籍」をおくこととしており、「交流籍」と呼んでいる。静岡県では、この交流籍を活用した取組（居住地校交流）を推進しており、ガイドブックも作成している。静岡県内の特別支援教育コーディネーターへの調査では、「居住地校交流の具体的実践」、「交流籍校への理解啓発」、「学校間の連携方法」等の課題が挙げられた。そこで、ガイドブックへの反映も目的として、交流籍を活用した居住地校交流の充実のための方策の検討を進めるため、静岡県内の特別支援学校へのインタビュー調査を行った。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、調査対象を県の研究指定校等、特別支援学校4校（視覚1校、知的1校、知・肢併置2校）に絞り、交流籍を活用した居住地校交流の推進を担っている教員にインタビューを実施した。聞き取りの観点は、交流及び共同学習の実践や、体制づくり、普及についての工夫と課題、交流及び共同学習の意義等とした。インタビューの結果から、居住地校交流の充実に向けた視点として、以下の事項が整理された。

- ・事前の打合せや事前学習の実施
- ・双方の児童生徒の目標や学習内容についての検討
- ・必要な情報の共通理解（打合せシートの活用等）
- ・小・中学校で学ぶ児童生徒に対する、障害、配慮、共に学ぶ方法等の丁寧な説明
- ・小・中学校の教職員への理解啓発（ポスター掲示等）
- ・居住地校交流の計画・実施の手順や各部署の役割の明確化等の体制づくり
- ・特別支援学校内における教員間での交流籍に関する学習の積み重ね
- ・居住地校交流に関する保護者の願いや希望の把握（アンケート等の工夫）
- ・市町村教育委員会指導主事、小・中学校の管理職や特別支援教育コーディネーターへの啓発（校長会やコーディネーター研修会等の活用）
- ・特別支援学校の児童生徒が居住する地域での暮らしを意識した実践

これらは、いずれも重要な視点であるが、事前打合わせや事前学習、保護者の願いや希望の把握の重要性等は、上記の保護者インタビューから得られた知見とも一致している。また、最後に挙げた、児童生徒の地域での暮らしを意識した実践は、児童生徒の日常生活の充実に直結し、学習活動・内容の検討を行うにあたり、有益な知見と考えられる。

4. 横須賀市の中学校における交流及び共同学習の充実（指定研究協力地域：横須賀市）

…中学校の特別支援学級担任及び学校長への調査から

交流及び共同学習に関して、校内の取組、とりわけ中学校における特別支援学級と通常の学級の取組の推進が課題となっている。横須賀市（本研究の指定研究協力地域）においても、中学校における取組の推進・充実を図る必要があり、実態の整理と充実方策の検討

を行うため、市内の中学校 23 校の特別支援学級担任への質問紙調査と、その結果から抽出した 3 校の学校長及び特別支援学級担任へのインタビュー調査を行った。調査の観点は、交流及び共同学習における成果、サポート体制、支援会議、特別支援学級の実態、交流及び共同学習を進める工夫、課題等とした。調査の結果から、中学校における校内の交流及び共同学習の推進・充実に向けた視点として、以下の事項が整理された。

- ・特別支援学級と通常の学級間の連携、調整
- ・校長のリーダーシップ
- ・特別支援学級の生徒に関する校内職員の把握・理解
- ・個々の生徒の特徴等を職員に伝達する機会の設定・工夫
- ・通常の学級の生徒に対する、特別支援学級の生徒へのサポート方法等を伝える機会の設定・工夫
- ・通常の学級の生徒に対し、適切なタイミングで特別支援学級の生徒への関わりをサポートできる体制
- ・個別的教育支援計画や個別の指導計画の活用
- ・特別支援学級の生徒への校内のサポート体制の充実
- ・支援会議及び特別支援教育コーディネーターの機能の充実

校内の交流及び共同学習の推進・充実は、校内における特別支援教育の推進・充実と密接に関連しており、特別支援教育の視点を生かした校内体制づくりや教育活動の展開が重要である。したがって、校内における障害のある児童生徒へのサポート体制や、支援会議を充実させていくことは、交流及び共同学習の推進・充実につながると考えられる。

【総合考察】

本研究では、文献や各種資料等から、これまでの交流及び共同学習に関する施策、研究、実践等を概観し、課題や取り組むべき事項を整理するとともに、障害のある児童生徒の保護者へのインタビュー調査、居住地校交流の推進を担う特別支援学校の担当教員へのインタビュー調査、中学校の校内における交流及び共同学習に関する特別支援学級担任への質問紙調査及び学校長を交えたインタビュー調査の各取組から、交流及び共同学習の充実に向けた視点を整理した。上記に示した、交流及び共同学習の計画・実施、体制づくり、学習活動の検討等を進めるうえで有益と考えられる視点に併せて、保護者へのインタビューにおける、「自己について認識していくこと」、「できることを増やすこと」等の保護者の語りから、実践の際に、あるいは実践内容の計画の際に持つべき視点として、交流及び共同学習の活動・学習において、児童生徒が持っている力を発揮できること、周囲の役に立っている実感が得られることの 2 点を指摘した。

最後に、今後の展開に向けて、さらなる課題と考えられる事項を整理した。

- ①本研究においても一部取り組んだが、交流及び共同学習に関して、障害のある児童生徒及びその保護者、通常の学級で学ぶ児童生徒やその保護者の意識を対象とした研究の蓄

積が質・量ともに求められること

- ②障害のある児童生徒及びその保護者、通常の学級で学ぶ児童生徒及びその保護者の、交流及び共同学習についての意識、思いを把握したうえで実践を検討することが求められること。また、その把握、共通理解をどのように行っていくかの工夫（時間、方法、ツール等も含む）が求められること
- ③交流及び共同学習の取組の成果について、障害のある児童生徒、障害のない児童生徒、双方の観点から研究の蓄積が求められること
- ④交流及び共同学習に関する実践について、対象、方法、内容等の各側面から多様な実践の蓄積が求められること。同時に、実践の質及び評価に関する研究の蓄積も求められること
- ⑤静岡県の「交流籍」の取組のような、地域の学校に副次的な籍を置く取組の一層の展開が求められること
- ⑥ICTを活用した交流及び共同学習についての実践・研究が求められること
- ⑦交流及び共同学習に関する、中学校における実践、校内における実践の蓄積が求められること
- ⑧障害のある児童生徒（多様な教育的ニーズのある児童生徒）が通常の学級で学ぶことを支えるための研究の一層の展開が求められること

上記のうち、⑤の副次的な籍の展開、⑥のICT活用への期待、及び⑦の校内における共に学ぶ活動の充実は、「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議報告」（文部科学省、2021）においても言及されており、交流及び共同学習の充実に向けて、極めて重要な視点と位置付けられる。その他の上記の事項についても、現時点で、十分には実践・研究・議論が蓄積されていない事項であり、いずれも今後展開すべき重要課題である。

【文献】

国立特別支援教育総合研究所（2018）．交流及び共同学習の推進に関する研究．平成 28 年度－29 年度地域実践研究成果報告書．

文部科学省（2021）．新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議報告．

https://www.mext.go.jp/content/20210208-mxt_tokubetu02-000012615_2.pdf（アクセス日 2021 年 2 月 9 日）

【成果の活用】

本研究の成果の一部は、静岡県主催の成果普及のためのフォーラムにおいて報告した。

今後、研究成果報告書の Web サイトへの掲載等のほか、日本特殊教育学会等の関係学会における発表・シンポジウム、本研究所の専門研修等における講義や協議、都道府県をはじめ各自治体等の研修、各地の校長会、各地の特別支援連携協議会等において活用し普及を図る予定である。